市民訪問

中学生〝一日署長〟が防火をPR

宇田川美南さん　清水　達行さん

3月1日から7日までの「火災予防週間」を前に、消防本部が2月16日にジャスコノア店で行った「防火キャンペーン」で、「一日消防署長」として活躍した、宇田川美南さん（福田中2年生・二ツ塚）と清水達行さん（第一中2年生・野田）。

二人は、学校の「職場体験学習」で、消防の仕事を希望したことがきっかけで、初の「一日消防署長」に任命されました。

宇田川さんは、「救急救命士に憧れて、消防本部を希望しました。女子は一人だけで不安でしたが、しだいに訓練が楽しくなって、あっという間の職場体験でした」と話し、今回の経験で、ますます救急救命士への思いが強くなったそうです。

「人を助けることに関心があって、消防本部を選びました。学校では剣道部に所属し、体力には自信があります」と話すのは、清水さん。

「一日消防署長」に決まったときは、緊張したそうですが、無事に通報訓練や店内の巡視などの任務を終えることができ、将来の選択肢が一つ増えたそうです。

紙上公共施設見学会「うめさと子ども館」

うめさと子ども館は、昭和54（1979）年に市内で2番目の子ども館として開館しました。

地域は年々人口が増えていることもあり、現在、同館は市内で一番利用者が多く、また、施設は南部学童保育所を併設していることから、毎日多くの子どもたちの元気な声が響きます。

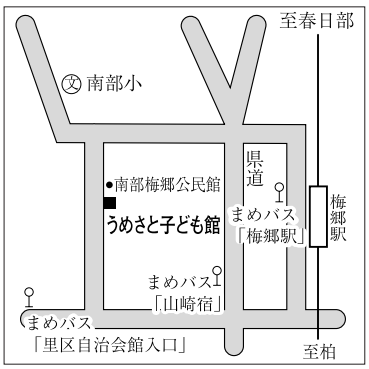
同館では、平成10年から独自の取り組みとして「移動子ども館」を実施しています。

子ども館の楽しさをより多く子どもたちに知ってもらおうと、毎月第3金曜日に「桜台公園」に出向き、おもちゃを作って遊んだり、夏には手作りの「とりもち」でセミ捕りをしたりして、愉快な一時を過ごすものです。

同年代の子を持つ親同士の交流も

毎月第2、第3日曜日には、「手作りランド」も開催し、季節行事に合わせ、たこづくりやひな人形づくりなどを行っています。

さらに、四季折々の自然を肌で感じながら楽しんでもらおうと、地域の用水路や公園などに出かけて、ザリガニつりや、虫捕り、どんぐり拾いなどもしています。



また、同館では、14年から毎年3月に、アマチュア劇団を招いて人形劇の鑑賞会を開催しています。

毎回、子どもたちは、人形と一緒に歌ったり、大きなかけ声を出したりと、夢中になります。今年は、3月26日㈬の10時30分から行いますので、ご参加ください。

トピックス

「みどりのふるさと」を願い　北部中で20本の苗木を植樹

ふるさとにみどりを増やし、土止めにも役立てようと、2月4日、北部中学校の環境委員会18人が「みどりのふるさとづくり実行委員会」のボランティア7人の協力を得て、チャボヒバとイヌマキを校庭に植樹した。

生徒たちは穴の大きさや深さなどの指導を受けた後、2人1組で作業を開始。植樹を終えた生徒は「将来、自分の子どもが通うときまでに、大きく育っていてほしい」と話していた。

雪が残る斜面に50センチの苗木を

〝落語修業〟の成果に　大盛況の「素人寄席」

中央公民館の生きがい作り講座「落語を楽しもう」を受講した、50～80歳代の18人の市民による「素人寄席」が2月9日、同館で開かれた。昨年9月から10回に渡り、山遊亭金太郎師匠の指導を受けた素人噺家（はなしか）たちは、途中セリフを忘れる場面もあったが、堂々とした話しぶりで、会場を笑いの渦に。

「将来は、学校や老人会で『出前落語』をやるのが夢」と出演者は、今後の目標を語っていた。

130人を超す観客を前に熱演